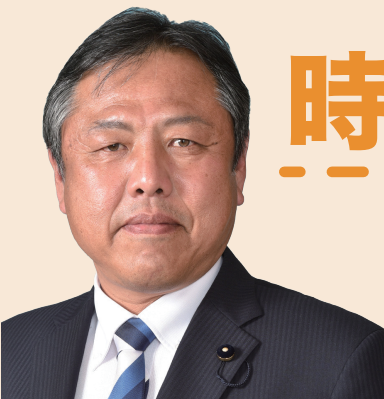




時田 かずいちろう通信

2025 年
8 月号
VOL.9

福井県議会議員 事務所

〒916-0141 丹生郡越前町西田中 2 丁目 6 0 6
電話：0 7 7 8 - 3 4 - 2 5 3 3
メール：fs-asahi@ebony.plala.or.jp

時田 かずいちろう

ご意見はこちら



一般質問

01

02

03

目次

- 部活動の地域移行について
- マレーシアとの交流について
- 福井城 坤櫓（ひっじさるやぐら）等の復元整備について

フルバージョンは
下記 QR コードから
ご覧いただけます。



活動ダイアリー

ご挨拶

町民の皆様方には日頃より大変お世話になり、また福井県政発展に向けた活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。今回は令和 7 年 6 月定例会の一般質問を掲載させていただきます。「部活動の地域移行について」は、いよいよ来年度から始まる中学生の休日部活動の地域移行における具体的なルールや支援について質疑いたしました。「マレーシアとの交流について」は、越前町が進めている「EDU ツーリズム」などのマレーシアとの交流について、福井県にも積極的に関わってもらえるよう要望をいたしました。5 月 17 日、31 日、6 月 15 日に越前町議会議員の皆さんと共に、我々議員からの発信と町民の皆様の声を直接お聞きする「越前町を語る会」開催させていただきました。どの会場にもたくさんの方々にお越しいただき、活発な意見交換やたくさんのご要望などをいただきました。今後も定期的開催して参ります。県政のこと、町政のこと、またお困りのことなど、日ごろ皆様が思っておられることを直接お聞きしたり、質問にお答えしたりする予定ですので、ご参加いただければ幸いです。

これからも越前町ならびに福井県の明るい未来のために、全力を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。

所属担当

会派「自民党福井県議会」
土木警察常任委員会

時田 かずいちろう

越前町を語る会（定員 60 名程度）

福井県と越前町の連携を中心に、町民の皆様と越前町の今を語ります！

2025 年 8 月 24 日（日）14：00 ～ 宮崎コミュニティセンター 会議室

2025 年 9 月 07 日（日）14：00 ～ 織田コミュニティセンター 2 階大会議室



02 マレーシアとの交流について

Q

時田 越前町の EDU ツーリズムを県も支援すべきでは？

A

交流文化部長 日本への延べ宿泊者数は約 2 百万人、率で言うと 1.4% となっており、本県では約 600 人、同じく 0.7%。日本政府観光局の推計では人口の約 8 割以上が訪日旅行未経験者であり、教育旅行など明確な旅行目的をつくるのが有効。県も越前町以外での受入れ調整やプロモーションに協力。ハラル対応など受入れ環境の整備を検討中。（答弁要約）

Q

時田 学校間オンライン交流の実施は？

A

教育長 昨年度、丸岡高校とマレーシアの名門校が 4 回にわたりオンライン交流を実施。参加した生徒からは「緊張したが英語でのやりとりが楽しかった」、「異文化に対する学びが得られた」との声。今年度、12 月丹生高校および越前町内の 4 中学で訪問受け入れを予定。今後、県内の希望校を確認し拡大を検討。（答弁要約）

Q

時田 インターンシップや企業訪問、合同説明会の開催は？

A

産業労働部長 留学生の定着促進のため、マレーシア人留学生向けに企業訪問や説明会の開催を県内のマレーシア関係者の協力もいただきながら検討する。企業の受入れ環境整備も進める。（答弁要約）

Q

時田 マレーシア政府やセランゴール州との交流の活発化は？

A

知事 地域間で交流しているのは全国でもほとんどなく越前町との関係は全国的にも先駆的な事例。マレーシアのエリート校 SBP は日本語を第二外国語にしており、越前町、マレーシア政府からの越前町外との交流したいとの意見を受け止め、教育関係者などや、また、教育旅行の誘致も含め検討。マレーシア農業・食料安全保障大臣も福井の先端的な農業に関心を持っており、教育交流・農業技術分野など多方面で関係強化を図りたい。（答弁要約）

03 福井城 坤櫓（ひっじさるやぐら）等の復元整備について

Q

時田 福井城址は今後どう整備していくのか？慎重な対応が必要では？工事による石垣等への影響や活用は？

A

知事 福井城址は歴史的価値が高く、御廊下橋や山里口御門なども史実に基づき復元してきました。今回は西側の「坤櫓」や土堀も、専門家の協議を経て忠実に復元していく。文化庁の復元基準を踏まえ、石垣や雁木についても慎重に設計・工事を進める。

また石垣は継続的に形状観測しており、大きな変化はなし。ただし、工事の際に影響が出る可能性があるため、補強も含め慎重に対応する。完成後は復元施設の活用方法や、現場見学・発掘報告会なども検討し、県民の関心を高めていく。（答弁要約）

- Q** **時田** 部活動指導員の配置の支援は？
- A** **教育長** 現在、県内市町立中学校の約8割にあたる52校に120人の部活動指導員を配置。市町に対し、国の補助を上回る他県より手厚い制度で支援。今後も国へさらに旅費や財政支援補助の拡充を要望していく。(答弁要約)
- Q** **時田** 大会やコンクール、練習試合等の引率の方針は？
- A** **教育長** 地域移行後も学校部活動は教員、地域クラブはクラブ側が原則引率。中体連大会など学校活動の場合は休日でも教員が引率し、休日の練習試合は地域クラブが基本。(答弁要約)
- Q** **時田** 今後の県の役割は？
- A** **教育長** 受け皿となる地域クラブの確保は、各市町および競技、活動ごとに状況が異なり、個別に課題解決を図っていく必要があり、各市町主体で協議会を設置し、県は総括コーディネーターを配置し、各市町へのきめ細かな支援を実施。ガイドラインの改訂も国の動向を踏まえて対応。(答弁要約)
- Q** **時田** 競技力は維持できるか？計画に支障を出さないことも重要では？
- A** **交流文化部長** トップアスリート育成には地域クラブとの連携が不可欠。遠征費等補助や強化大会支援、日本スポーツ協会が認める公認スポーツ指導者の養成など今年度は100名の指導者を新たに確保し、競技力向上策を強化中。(答弁要約)

01 部活動の地域移行について

- Q** **時田** 地域移行はいつから？各市町はどのような形で地域移行を？
- A** **教育長** 令和8年4月から全市町で休日部活動を地域に移行予定。県内全市町において取組みを進め、すでに47%が移行済み。今年度末、9割以上の移行を目指す。各市町によって、地域スポーツクラブや教育委員会が受け皿となるなど多様な形態で進めている。(答弁要約)
- Q** **時田** 費用は誰が負担？民間クラブへの支援の在り方を検討すべきでは？
- A** **教育長** 市町によって費用負担の方針は異なり、保険料のみの市町が4市町、指導者の謝金等、会費等で徴収する市町が9市町、旅費等を徴収する市町が1町。負担を求めている市町もある。国が8月に支援の在り方などを検討し、県は国の動向を注視しながら今後の支援体制を検討する予定。(答弁要約)
- Q** **時田** 教員が地域クラブを支えるには？兼職兼業のルールは？
- A** **教育長** 意欲ある教員が地域クラブで指導できるよう、兼職・兼業を県ガイドラインで容認。各市町で健康状態や勤務状況、学校運営に支障がないことを判断し、兼職・兼業を個別に確認し許可している。教員にとっても、自身の特技を生かせることは、やりがいにつながると考える。(答弁要約)

Daily Activities

活動ダイアリー

